〔 4 〕学会委員会　　委員長　久保　佳子

1　委員会開催状況

(1)委員会　11 回

(2)検討事項

①第 23 回福岡県看護学会について

ア　運営方法について　　イ　シンポジウムについて　　ウ　抄録選考について

エ　プログラムについて　オ研究発表支援員について　　カ　特別企画について

キ　発表者と支援員のための説明会及び面談会について ク　集録集について

②第 24 回福岡県看護学会について

ア　運営方法について　　イ　テーマについて　　ウ　特別講演について

エ　シンポジウムについて　オ　ポスターチラシについて　カ　学会実施要綱について

キ　特別企画について　　ク　広告掲載企業について　　ケ　研究発表支援員マニュアルについて

コ　令和 6 年度のスケジュールに関して

(3)その他

ア　委員長、副委員長 互選について　イ　令和 6 年度学会委員会活動内容事業計画について

2　活動報告

(1)第 23 回福岡県看護学会

テーマ　看護の進化と深化

開催日　令和 6 年 1 月 20 日(ナースプラザ福岡にて現地開催)

令和 6 年 2 月 5 日～3 月 5 日(オンデマンド配信)

内　容　①口演発表 19 演題　示説発表 10 演題(申込演題 32 演題、採択演題 29 演題)

②特別講演「2040 年に向けて期待される看護の進化と深化」

講　　師　国際医療福祉大学大学院　副大学院長　教授/

前　公益社団法人日本看護協会　会長　福井トシ子 氏

座　　長　公益社団法人福岡県看護協会　　会長　大和日美子 氏

③シンポジウム「今だからこそ家族看護を見つめ直す」

講　　師　第一薬科大学看護学部教授/NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト 代表理事

濵田裕子 氏 ※コーディネーター

福岡大学医学部看護学科助教

家族支援専門看護師　　浅野悠佳 氏　※シンポジスト

聖マリア学院大学看護学部看護学科講師

家族支援専門看護師　　山口智治 氏 ※シンポジスト

一般財団法人平成紫川会 小倉記念病院 クオリティーマネジメント課課長

急性・重症患者看護専門看護師　　立野淳子 氏 ※シンポジスト

④教育講演「進化を目指した看護実践～診療看護師（NP）の活動を通して～」

講　　師　医療法人社団中津胃腸病院 訪問看護診療看護師　光根美保 氏

座　　長　公益社団法人福岡県看護協会　専務理事　　石橋薫 氏

⑤委員会報告

進　　行　公益社団法人福岡県看護協会　新人看護職員研修運営委員会/

九州大学病院　　井上辰幸 氏

ア　「知りたい！福岡県の新人教育の今と 2 年目看護師のホンネ～令和 4 年度のアンケート調査結果より～」

報告者　　公益社団法人福岡県看護協会　新人看護職員研修運営委員会/

久留米大学医療センター　佐々野時美 氏

イ　「専門家から学ぶ感染管理～認定看護師不在施設で勤務する看護師へのボトムアップ研修報告～」

報告者　　公益社団法人福岡県看護協会　感染管理委員会/

独立行政法人労働者健康安全機構　総合せき損センター　松本正幸　氏

⑥看護研究セミナー「看護研究を楽しもう～テーマの見つけ方～」
講　　師　令和健康科学大学　看護学部看護学科教授・学科長　　辻慶子　氏
⑦特別企画「医療機関における安心・安全な電波利用－ これからの電波利用について－」
講　　師　佐賀大学 理工学部 数理・情報部門教授　　花田英輔 氏

対　象　看護職及び看護学生
参加者　715 名（発表者含む）　オンデマンド配信の為、受講決定者にて算出
5 校（看護学校）　　オンデマンド配信のみの参加

(2)「発表者と研究発表支援員のための説明会及び面談会」
開催日　7 月 26 日　※開催日に参加できない場合は、別日にてオンラインにて開催
内　容　学会発表者の研究に対して原稿のまとめ方の支援を行い、最終原稿作成までを支援する
対　象　学会発表者及び発表者を支援する支援員
参加者　18 組（発表者 18 組・支援員 18 名）

3　今後の課題・検討事項等

第23回福岡県看護学会は、第19回以来4年ぶりの現地開催とオンデマンド配信のハイブリッド開催とした。委員会ではより質の高い学会開催を目指し、昨年度の企画・運営を振り返りながら検討を重ねていった。

学会参加者のアンケートの結果では、参加満足度は97.9％と高く、教育講演、シンポジウム共に「参考になった」「いくらか参考になった」で 90％を超える回答を得ることができた。シンポジウムにおいては、ディスカッションの時間の不足との意見があった。オンデマンド配信は、参加の利便性や繰り返し視聴できる等プラスの意見が多くみられた。

また、今年度は教育講演を追加企画したため、内容が増えた分「休憩時間が短い」との意見が出された。次年度は、時間的に余裕をもったプログラムを企画したい。

学会参加者数は、コロナ禍でオンデマンド開催を行った第 20 回～第 22 回に比べ増加した。しかし、参加者の年代、病床数における参加施設や地区別に偏りがみられたことを重要事項の一つとして、引き続き企画を検討していく必要がある。

ハイブリッド開催したことは、学会委員会にとっては良い経験となった。メリット・デメリットを見出したことで、今後の学会開催に向けて企画・運営を広い視野で捉えることができるようになった。第 24 回は引き続き、現地開催及びオンデマンド配信となる。それぞれのメリットを最大限に活かせるように取り組んでいきたい。